

フリーソフトウェアと それを取巻く状況

すずきひろのぶ

hironobu@h2np.net

2002年度版

真性ハッカーの終焉

「ぼくは、死に絶えた文化の最後の生残りだ」と、RMSは語った。「ここがぼくの最後の居場所だっっていえるところは、もう世界のどこにもなくなってしまった。ある意味じゃ、死んだほうがましだっって気がするよ」

1984年1月

- RMSがMITを辞めた
- GNUプロジェクトをスタートさせた
 - ウィンストン教授のサポート
 - MIT AI Lab
 - prep.ai.mit.edu

1985年

- **FSFの設立**

- **プロジェクト運営の資金調達**

- ソフトウェア頒布
 - 物品販売
 - 出版事業

1991年

- **GNU General Public License Version 2**
 - 初版(Version 1)は1989年

Goal of GNU Project

- 完全に*Free*なオペレーティングシステム
- 目標があって開発されている
 - プログラムを組むのが楽しくてやっているわけではない

O'er the Land of **the Free**

- クイズ
 - さて、どこから引用？
- ヒント
 - 新庄選手は覚えたのだろうか？

無料の土地と訳したら

アメリカ人は激怒する(と思う)

Free Software

- 4つの自由を持つソフトウェア

第0の自由

- 目的を問わず、プログラムを実行する自由

第1の自由

- プログラムがどのように動作しているか研究し、そのプログラムにあなたの必要に応じて修正を加え、採り入れる自由
 - ソースコードが入手可能であることが前提条件

第2の自由

- 身近な人を助けられるよう、コピーを再頒布する自由

第3の自由

- プログラムを改良し、コミュニティ全体がその恩恵を受けられるようあなたの改良点を公衆に発表する自由
 - ソースコードが入手可能であることが前提条件

Open Source

- 1997年VA Linux Systemsのオフィスで生まれたマーケティングのための造語
 - Eric Raymond, Tim O'Reilly, Larry Augustin, etc
- OPENSOURCES *voice of the Open Source Revolution*
 - Chris DiBona, Sam Ockman, Mark Stone

Open Source Definition

- 再頒布の自由
- ソースコード
- 派生ソフトウェア
- 作者のソースコードの完全性
- 個人やグループに対する差別の禁止
- 利用する分野に対する差別の禁止
- ライセンスの分配
- 特定製品でのみ有効なライセンスの禁止
- 他のソフトウェアを制限するライセンスの禁止

何が違うのか？

- Free Software
 - 社会的な運動
- Open Source
 - 開発のための便宜
- あまり違いがない？

しかし現実の運用では...

- <http://fsf.org> vs. <http://opensource.org>
 - 両陣営のウェブサイトを見ると違いがよくわかる
- FSF
 - DMCAの問題やパテントの問題に対してのアナウンスメントが満載
- Open Source Initiative
 - OSD定義とOSI認定した他ライセンスのアナウンスが満載され
 - Eric Raymondサイトのミラー？

擬似ライセンスの氾濫

- OSI認定の乱発
 - ベンダーへの免罪符？
 - 今日数えたら54ライセンスもあった
 - GPLはOSI認定なんて頼んでいないんだけど...
- 本当にこれでいいのかOSI
 - VA Linux Systems, O'Reilly, Eric Raymondの玩具なの？

ITバブルの置き土産

VA SFTWRE CORP
as of 14-Apr-2003



“Open Source”ビジネスモデルとやらの行き着く先

FSFEurope Said

The OSI set out to maintain the integrity of the movement and prevent abuse by proprietary vendors by introducing "Open Source" as a trademark for Free Software; but this initiative failed.

“We speak about Free Software” FSFEurope Website

オレ様Open Source定義

- Open Sourceはあきらかに混乱を起こしている
- Proprietary Softwareなグループの詭弁とFree SoftwareへのFUDに使われる

F.U.D

不安 (fear) ・ 不確実性 (uncertainty) ・ 疑い (doubt) の頭文字で競争相手の製品ではなく自社製品を使うように顧客を口説くために、競争相手の機器やソフトウェアにの未来には暗雲が立ち込めていると断言することによって暗黙の強制をする

GPLは汚染する (F.U.D)

- 事実

- GPLが適用されたライブラリとリンクされたソフトウェアは、それが単一の著作物を形成する場合のみ GPLを継承するのであって、単に一緒に頒布されるというだけならば他のソフトウェアには影響しない

- 現実

- Windows Services for UNIX (SFU) 3.0 by Microsoft Corporation
 - gcc, g++, g77など含まれるパッケージ

現実を直視せよ

- 90年代にUNIXと名乗る製品が衰退していった理由は？
- 典型的末期症状 ～ Motif 問題
 - 1.0 based X11R3, X Window System license
 - 1.1 based X11R4 ライセンス変更
 - 気が付けばIntegrated Computer Solutions, Inc の持ち物に
 - 2000年突如 Open Motif となる
 - Open Sourceもどきのライセンス

The Prisoner's Dilemma

- 囚人のジレンマ
 - 非ゼロサムของเกมセオリー
 - 数理学
- Merrill Flood , Melvin Dresher (1950)
- Robert Axelrod, Douglas Hofstadter (1984)
 - The Prisoner's Dilemma model

GPLはゲーム理論上では有利に働く

The Prisoner's Dilemma Model

[協力・協力]が最も利益を得ることができる

Player A

Player B

	Cooperate	Defect
Cooperate	<i>GPL</i>	-5/0
Defect	0/-5	-5/-5

Player A / Player B

GPLを持つソフトウェア

- 増加の一途

- IBMでさえ自社製品であったJFSをGPLライセンス下で公開している
 - 時代はかわったものだ...(RMS said)
- GNU Projectが開発用ディレクトリを提供

<http://savannah.gnu.org/>

今後の予測

- Free Softwareはさらに増える
 - 現実にはGPLへシフトしている
 - 安易なオレ様Open Source定義はさらに混乱を招くだろう
 - もう勘弁してほしい
- 巨大Proprietary Software企業とガチンコ勝負になる
 - 既に潰しにかかっている
 - さらにF.U.Dは続くだろう

真性ハッカーの終焉

そしていま多くの人々が、マシンの奇跡のような可能性をかいま見ることができるはずだ。その体験は、人々の能力を拡大し、創造性を刺激するに違いない。そして、もし、耳を傾けたならば、おそらくハッカー倫理のいくらかを、その体験から学ぶことができるだろう。

Steven Levy著 Hackers (1984) より